

1.2 効果的な発表について（プレゼンテーション技術）

(1) 研究開発の課題（概要）

プレゼンテーション力はこれから先、あらゆる分野で必要とされる技能である。本校では1年生の夏季休業中に課題研究を課し、レポートとしてまとめさせ、まとめた内容をSSH概論の時間に1人ずつプレゼンテーションさせる機会を設けている。プレゼンテーションがどのようなものであり、どのようにしたら良いのか、また、気をつけたい点や心がけたい点を生徒に理解させ身につけさせることでポイントを押さえた分かりやすいプレゼンテーションの構築をはかった。

(2) 研究開発の経緯

1年生の課題研究発表会に向け、昨年度は、希望者を募ってプレゼンテーション研修を実施した。好評で、将来的に必要となる技能であることから今年度は希望者でなく1年生全員を対象とした。昨年度依頼した松浦先生にも快諾いただけ、実施の運びとなった。なお、予定していた日のうち一日が台風による生徒自宅待機となったため、6学級は1か月ほど遅れての実施となった。

(3) 仮説（ねらい、目標）

- ア プレゼンの特徴や技法、内容構成や資料作成のポイントに関する知識を学ばせる。
- イ プレゼンテーション実習を行うことで具体的な方策を知らせる。
- ウ 後日実施する課題研究発表に向けて、進め方を理解させる。

(4) 研究の方法および内容

ア 対象生徒

1年生9学級

イ 実施日時

平成23年9月20日（火）12時55分～15時15分

平成23年10月28日（金）9時55分～12時15分

12時55分～15時15分

ウ 実施場所 本校 視聴覚教室

エ 講師

名古屋工業大学工学教育総合センター 准教授 松浦 千佳子 先生

オ 実施内容

講義と実習を織り交ぜての講演であり、全員が一度はどこかで発言・発表する場が設けられた。グループも何度か組み換えを行ない、異なるメンバーでも会話するように企画された。以下、講演の概要を示す。

- ・発表とは？
- ・内容作成・資料作成のポイント
- ・グループを作って

自己紹介

続いて討論「課題研究で先生は何を期待しているのか」

討論内容の発表（3グループ）

課題研究についてグループ内で発表しあう

「その研究をすることにした理由」、「どのように進めたのか」など

- ・プレゼンの流れ
- ・リハーサルは声を出して
- ・声を出すウォーミングアップ例



エクササイズ中の生徒



割りばしを口にはさんで発音練習

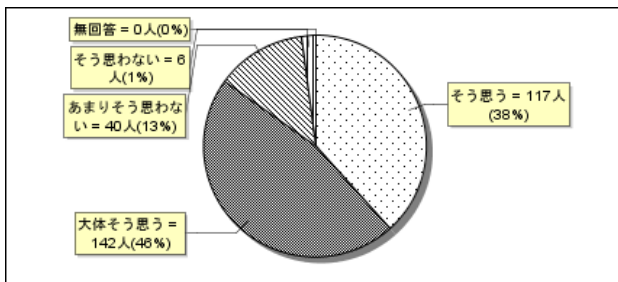
(5) 検証（成果と反省）

ア 事業内容全体の評価

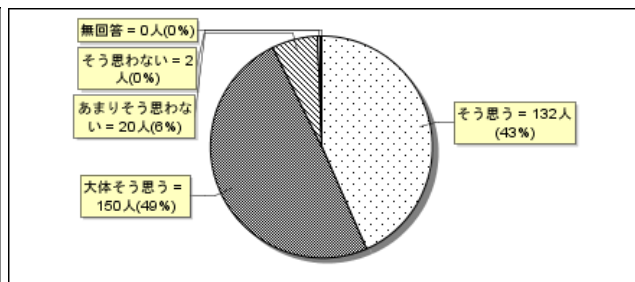
生徒はプレゼンテーションに関する研修を受けるのは初めてで、今までプレゼンテーションを何度となくやってきた生徒も見よう見まねでやってきたようである。今回の研修では、プレゼン自体をほぼ初めて行なうような生徒はもとより、今まで何回かプレゼンを経験してきた生徒からも、気をつける点がよくわかったなどプレゼンを実施していく上での準備・進め方・話し方・注意点など分かりやすく講演いただいた。特に、後日行なう発表会に向け有意義な内容となった。

イ 事後アンケートの結果から

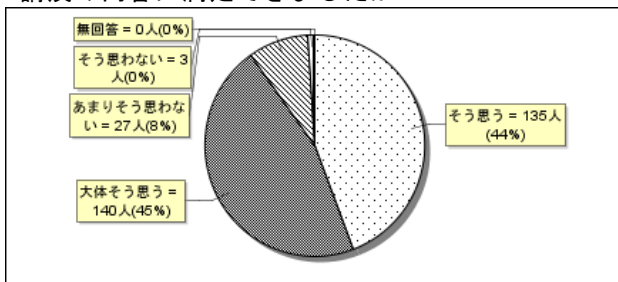
講演に興味関心はもてましたか



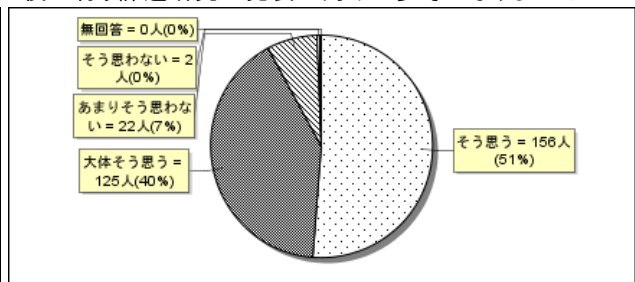
講演の内容は理解できましたか



講演の内容に満足できましたか



後日行う課題研究の発表に向けて参考になりましたか



生徒一人一人に課題研究の発表を課したので、必要性もあって、関心をもって受講することができたようである。プレゼンや発表をどちらかという得意としていた生徒はもちろん、いままでプレゼンや発表をする機会がなかったり、苦手として避けてきた生徒もポイントをつかみ、後日行なう発表に向けて参考になったようである。

ウ 生徒の感想から

- ・効果的な発表をするのは思った以上に様々なことに気をつけないといけなくて、難しいとわかりました。
- ・今までいろいろ発表をやったけど改善すべき点が色々あった。気をつけることがわかってよかった。
- ・相手によく伝わる発表のしかたがよくわかりとてもよかった。

エ 研究開発実施上の問題点及び、今後の研究開発の方向

昨年度は希望者35名で実施したプレゼンテーション研修であったが、課題研究の発表会もあり、学年全員を対象として実施した。講義だけでなく、実習・エクササイズも用意され、生徒は楽しみながらプレゼンの方法・技術を学んでいた。3学級約120人ごとに講演会を行なったが、エクササイズを行なった関係で会場とした視聴覚室ではやや狭かった感がある。また、将来的には高校の教員がプレゼンの基本事項を習得し、高校の教員だけで指導できるとよいが、特にエクササイズ中の講師による臨機応変な対応を見ていると高校教員だけで指導するには多くの経験を必要とすることが考えられ、今後の検討が必要と思われる。